

酷暑もいくぶんやわらぎ、秋の気配とまでは言えないが、蟬の声に代わってトンボが舞いだしました。通学時の子どもたちの笑顔がなつかしい。

現在会員登録数3,052人さま。次号は9月20日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 「おはなしモノレール」参加者募集

大阪モノレール「万博記念公園駅」から「彩都西駅」まで、貸切モノレールに乗って、車内で「絵本」や「おはなし」を楽しみ、彩都の会場では「人形劇」を観ていただくお子様向けのイベントです。

5歳から小学校3年生までのお子様と保護者の方、あわせて240人を募集します。開催は9月21日（土）で、参加費はお一人500円（大人・子ども同額）です。申込締切は9月9日（月）必着。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/01_kids/index.html#010921

● 「第36回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（木）です。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#36boshu

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第33号の原稿を募集しています。詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

◇ 「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第32号」を販売しています。

発行：当財団 2019年3月 A5判 164頁 1500円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『貸出禁止の本をすくえ！』 アラン・グラッツ/著 ないとうふみこ/訳 ほ
るぷ出版 2019年7月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：小学4年生のエミー・アンは、読書が大好き。家では妹たちが
いて本が読めないの、図書室で居残りして本を読んでいた。ところがお
気に入りの『クローディアのひみつ』がスペンサーさんという保護者の申
し立てによって教育委員会からの通達で貸出禁止になる。

そこで、エミー・アンは、禁止になった11冊の本を友だちなどから集め
て学校のロッカーに保存して、希望者に貸すことにする。しかし、貸出禁
止の本は増え続け、ロッカー図書室は校長先生に見つかってしまう。

T：子どもの読む権利という大切なテーマを真正面から描いた作品がしまし
た。

Y：『誰だ ハックにいちゃもんつけるのは』（ナット・ヘントフ/著 坂崎麻
子/訳 集英社 1986年）はヤングアダルト作品でしたが、この本は9歳の
エミー・アンが主人公です。

T：読者対象年齢は小学校高学年以上かな。エミー・アンはこの活動を通
して自分の考えを持ち、意見が言えるようになり、仲間もできて成長しま
す。エミーが貸出禁止に抵抗してロッカー図書室を作るところがおもしろ
い。

Y：最初から抵抗運動をしようというのではなく、自分のように禁止になっ
た本を読みたい子がいるだろうなと思うところから自然発生的にロッカー
図書室ができるという過程がよかったです。

T：子どものときには、よく友だちと本の貸し借りをしました。本をめぐる
交流の楽しさが描かれています。

Y：11冊のロッカー図書室から、また禁止本が増えて、禁止本を図書室から
盗んでしまう。それが見つかってしまい、貸出禁止に抵抗するには個人的
な活動から組織的な運動にせざるを得ないようになるという三段階の過程
に説得力を感じました。

禁止になった本のリストも『スパイになりたいハリエットのいじわる解決
法』から『スーパーヒーロー・パンツマン』までバランスがとれて興味深
かったです。

T：アメリカのどこかで一度は貸出禁止になった本とのこと。本に優劣をつ
けないという作者の主張が読み取れます。

Y：検閲の問題は、学校で『はだしのゲン』が閲覧制限になったことがある
など、日本でもひとつとではありません。とはいえ、少しだけ残念に思っ
たこともありました。

「学校の図書室」と書かれていて、「学校図書館」と書かれていなかったこ
とと、ロッカー図書室の貸出は誰が借りたかわかる方式でプライバシーが
守られていなかったことです。

T：学校司書のジョーンズさんが「利用者の秘密をまもること」(p.318)に

ついて述べる場面はありますが、貸出禁止を申し立てたスペンサーさんの過去の読書記録もカードから暴露されます。

Y：結末は、エイミー・アンが『ハンガー・ゲーム』を父親から禁止されて納得して終わります。日本の読者は、ここから保護者の責任と子どもの権利について話し合えるのではないかと思いました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第48回「貝の火」

結末の言葉が意味するもの

童話「貝の火」は、子兎のホモイが川で溺れていたひばりの子を助けるところから始まります。

その善行により、鳥の王から〈貝の火〉を贈られたホモイですが、これは持ち続けるのが難しい宝珠で、一生満身に保持することのできた者は鳥に二人、魚に一人のみ。貝の火を手にしたホモイは周囲から敬われ、王様になった気がして慢心します。そこにつけいった狐にそそのかされていじめに荷担、権力を行使するもやがては脅しに屈し、それがもとで貝の火は砕けて、その粉で失明するという物語です。子ども向けの話というには、厳しい結末がよく話題になるところです。

ところで、読んでいて誰もが気になるのは、命がけの善行を施したにも関わらず、また、まだあどけない子兎であるにも関わらず、なぜホモイに厄介な〈貝の火〉を授けたのか、という点です。貝の火を手中にした多くの者がそうであったように、ホモイの破滅は自明の理といえるのかもしれませんが。敢えて、子兎の生涯から光りを奪うことに、どのような意味があったのかを考えずにはられません。

このことは、物語の結末、ホモイの父による次の言葉につながります。〈泣くな。こんなことはどこにもあるのだ。それをよくわかったお前は、一番さいわいなのだ。目はきっと又よくなる。お父さんがよくしてやるから〉。

考えてみれば、ホモイの行動に終始寄り添っていたのが父でした。その行動を注視し、諫め、叱り、命を懸けて狐と戦うなど、常にホモイの倫理であったといえます。しかし絶対的なこの倫理も、盗品のパンを二度にわたって食べるといふ脆さをも露呈します。貝の火の妖しい美しさが、父親の絶対的な倫理に揺れを生じさせたのかもしれませんが。

父親はおそらく、そのことに気づいていたでしょう。

ゆえに、ホモイの破滅に負うべき責めを感じ、結末の言葉となったのでしょうか。

この作品では、ホモイの破滅よりもむしろ、結末の父親の言葉に向かって物語が紡がれているようにさえ感じます。宗教や自立をめぐる、父との対立が取りざたされることも多い賢治。この言葉を認めながら、賢治は何を思っていたのでしょうか。いずれにせよ、父親が重要な役割を担っているといえそうです。（ペ吉）

(本文の引用は、新潮文庫版『新編 風の又三郎』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 2

とべよ とべとべ 花びらよ
にしを とおって ひがし いけ
きたを とおって みなみを めけて
もどっておいで わを かいて
おまえが じめんに ついたなら—
わたしの おねがい きいてくれ

(『ななつのおねがい』ワレンチン・カタールエフ/作 三木卓/訳 鈴木義治/
絵 あかね書房 1969年)

これは私が小学二年生のころに読んだ『ななつのおねがい』という本に出てくることばです。ジェーニャが、不思議なおばあさんから、七色の花びらを持つ花を一輪もらい、その花びらを飛ばして、この呪文を唱えると、願いがかなうというお話です。

ジェーニャは、最初の願いを、犬に食べられてしまったドーナツを取り戻して家に戻るのに使ってしまう。2つめの願いは、お母さんの大事な花瓶を割って元に戻し、3つめは、男の子の北極ごっこに入れてもらえない悔しさから、一人で北極へ行って凍えて、4つめで元の場所に戻り、5つめは女の子たちがおもちゃを持っているのを見て世界中のおもちゃがほしいと言い、6つめは、町にあふれたおもちゃを見てそれを元に戻します。つまり、ジェーニャは、6つめまでの願いを無駄に使ってしまう。そして、最後の花びらは足の不自由な男の子に出会い、一緒に走りたいと願って実現するのに使います。

私はこの本を何度も読んで、「とべよとべとべ」という呪文を覚えてしまいました。三木卓のリズミカルなことばによって、花びらとともに世界を旅することができました。願いごとの実現がまるで自分の身にふりかかっているように感じました。そして、夜寝られないとき、もし、自分だったら7つの花びらをどうやって使うかを考え続けました。

日常のたいへんなこともこの花びらがあったら・・・と考えてこの呪文を唱えることで乗り越えることができ、ジェーニャの失敗と他者を救うという結末は、人間の願いと魔法の不思議について考え続けさせました。児童文学を学ぶ中で幼年期はことばが体に沁みこむ時期だということを学んだ時、この本を思い出してとても納得しました。(Y)

《4》行って来ました！

大阪歴史博物館で9月8日まで開催中の特別展「ニャンダフル 浮世絵ねこの世界展」に行ってきました。この展覧会では、国芳、広重、国貞など江戸・明治時代に活躍した浮世絵師たちの錦絵、書籍等が7章に分けて150点以上展示されています。

第1章「猫のプロフィール～ありのままの猫～」では、毛並みまで感じられるような写実的な猫が並びます。獲物を狙っていたり、手毬で遊んでいた、ただ窓の外を眺めていたり、気ままな猫の姿に心が和みます。第2章「お茶目な猫たち～猫の戯画―国芳作品を中心に～」では、歌川国芳の擬人化された表情豊かな猫たちに思わず笑ってしまいます。

第3章「国芳と猫と美人たち～浮世絵師・国芳描く自画像、猫、美人～」、第4章「猫は美人が好き～美人画の中の猫～」は女の人と猫、第5章「猫は子どもの友達～猫と子どもは仲よし～」は子どもと猫の取り合わせ。猫を抱きあげたり、なでまわしたりしている絵もあれば、猫が人にじゃれついたり、側にちょこんといるだけのものもあります。可愛がり方はそれぞれですが、昔も今も同じだなと感じました。

第6章「楽しくユカイな猫の国～猫のおもちゃ絵～」は、一枚の絵に擬人化された猫がこまごまと描き込まれていて、すみずみまで見るのが楽しかったです。明治の風俗や文明開化、あきんど、長屋の様子、銭湯の絵もたくさんありました。「しん板猫のけいこ所」という猫の女の子たちが楽しそうに三味線や歌をならっている絵がとてかわいくて気に入りました。打って変わり、最後の第7章は「化け猫ものがたり～妖怪になった怖い猫～」です。飼い猫も長生きすると化け猫になると信じられていたようで、ぞくっとするような猫を見て、夢から覚めたような気分になりました。(K)

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● 2019 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展
会 期：8月17日(土)～9月23日(月・祝) 水曜休館
時 間：10:00～17:00、金曜日は～19:00(入館は30分前まで)
場 所：西宮市大谷記念美術館(兵庫県西宮市)
料 金：有料
主 催：西宮市大谷記念美術館/毎日新聞社/(一社)日本国際児童図書評議会

● 『ひとりでよめたよ！幼年文学おすすめブックガイド200』 刊行記念
トークイベント「幼年文学ってなんだろう？ ～読み聞かせから一人読みへ」
講 師：宮川健郎(児童文学研究者、大阪国際児童文学振興財団理事長)
聞き手：ほそえさちよ(フリー編集者)
日 時：8月27日(火) 19:00～20:30
会 場：ブックハウスカフェ(東京都千代田区)
参加費：有料 申込み：必要
主 催：ブックハウスカフェ

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『貸出禁止の本をすく

え！』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.108 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は9月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

—|—|—|—|—|—|—|—|—|—|

今年から地元の芸術祭に関わり、薦められる難解な書籍に四苦八苦。しかし、専門家の講話を聴いていくぶんスッキリ。「アートにはそれを見るための多様な視点が存在し、どれが「正しい」(真の)作品のとらえ方なのかは究極のところ誰にもわからない。」そうですよね、最初からそう言っていただければ腑に落ちていたのに。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
